

最近の経済動向

令和2年4月号

(北海道の景気動向～令和2年2月の経済指標を中心として)

新型コロナウイルスの影響により、厳しい状況がみられる

■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)
弱い動きが続いている

■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、新車登録台数)
一部に弱い動きがみられる
- P5 住宅建設(新設住宅着工戸数)
減少している
- P6 公共工事(公共工事請負金額)
減少している
- P7 観光(来道者数、来道外国人数)
厳しい状況となっている
- P9 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■企業倒産

- P10 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額とも減少した

■雇用動向

- P12 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きがみられる

■物価動向

- P14 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■企業の業況感

- P15 企業経営者意識調査
前期から下降している
- P16 企業のみなさまから伺いました

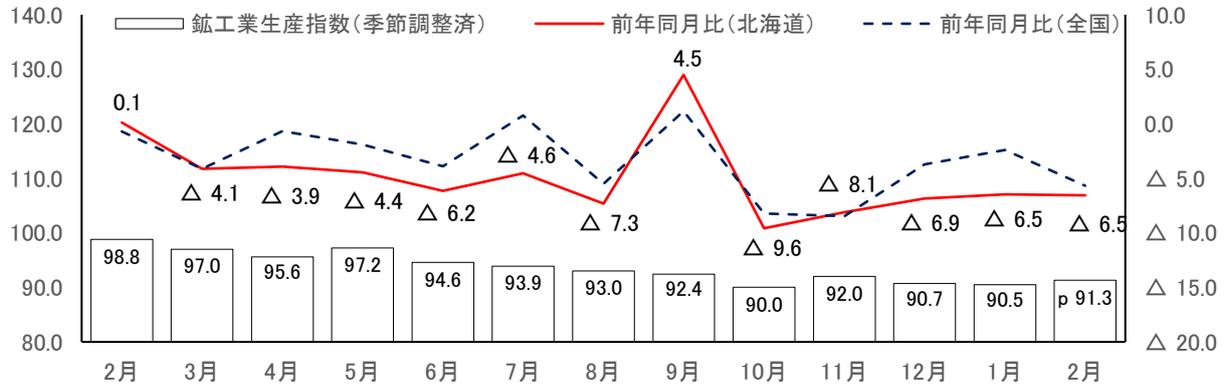
生産活動～弱い動きが続いている

鉱工業生産指数（2月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、91.3で前月比+0.9%（3か月ぶりの増加）であり、原指数による前年同月比は、△6.7%（5か月連続の低下）となった。業種別にみると、一般機械工業等6業種が前月比低下、輸送機械工業等9業種が前月比上昇となった

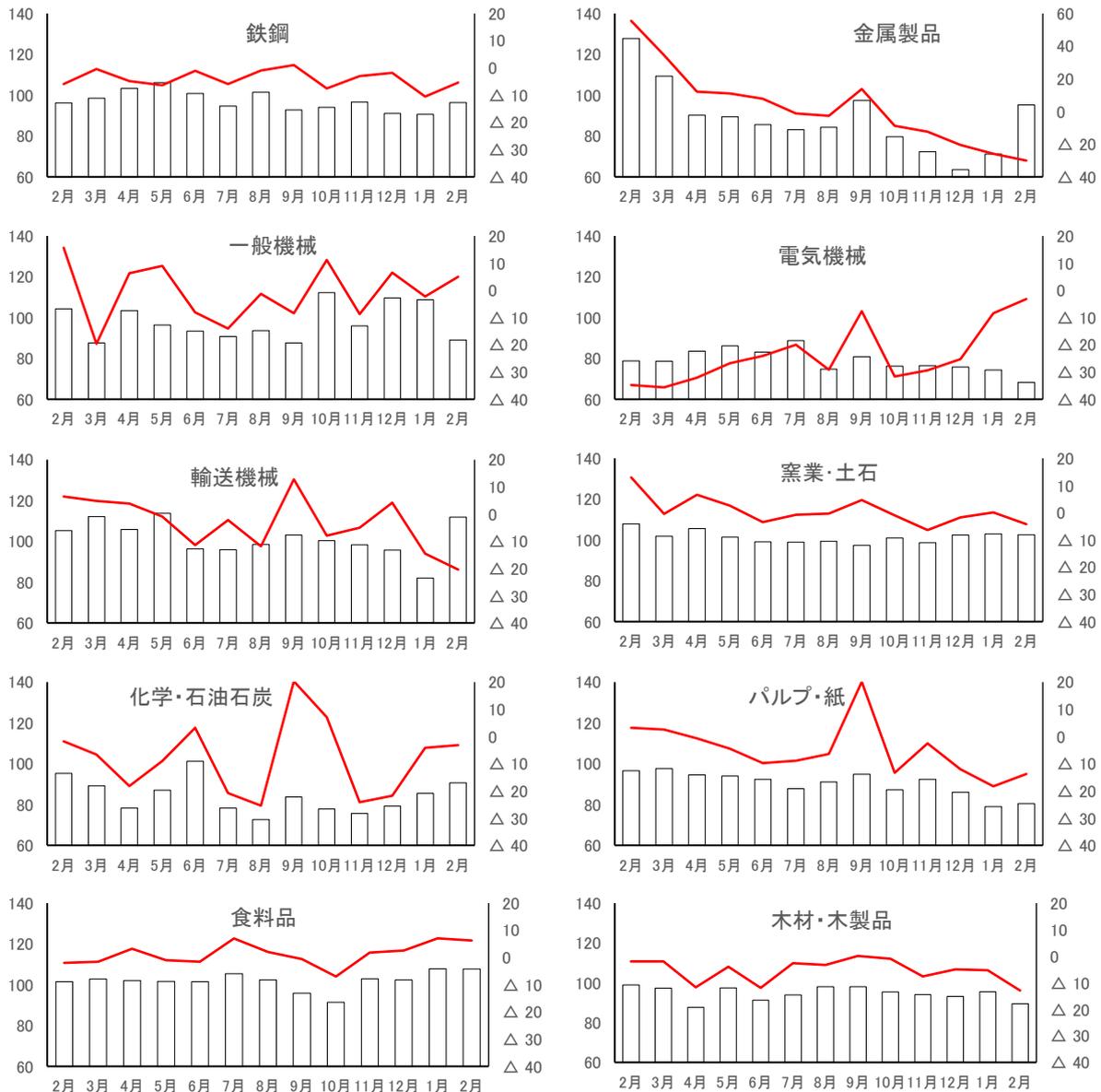
（季節調整済指数：平成27年＝100）

（原指数前年同月比：%）



■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

*「p」は速報値

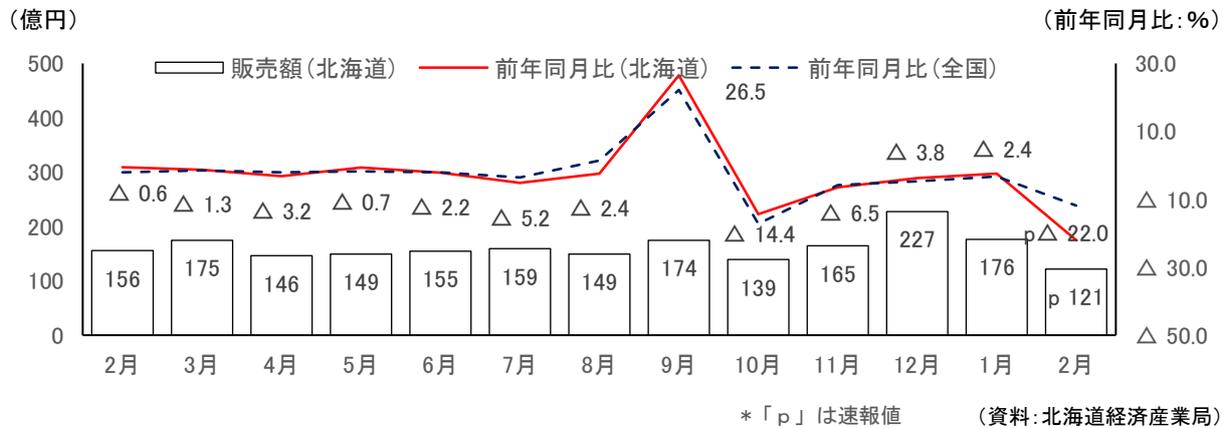


（資料：北海道経済産業局）

■個人消費～一部に弱い動きがみられる

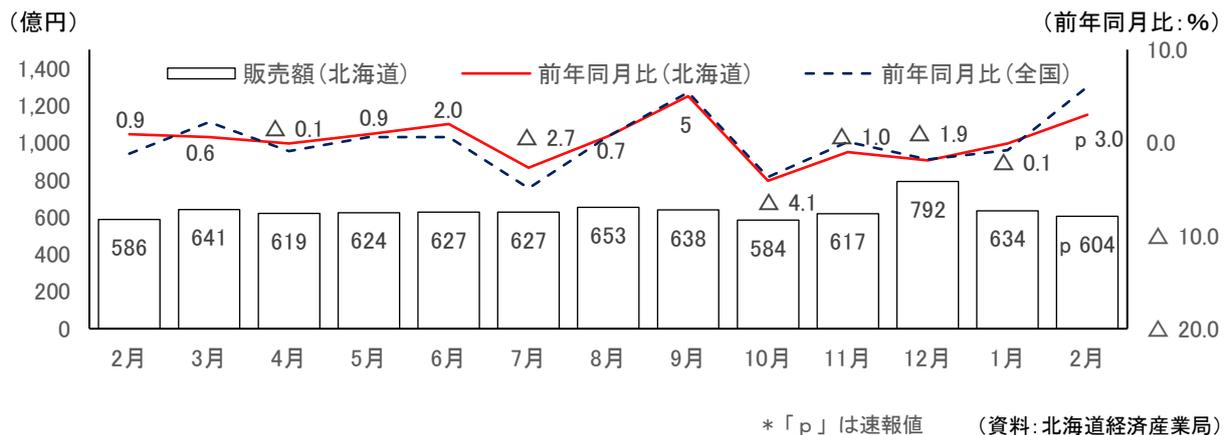
百貨店販売額（2月）

百貨店販売額は、121億円で前年同月比22.0%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。



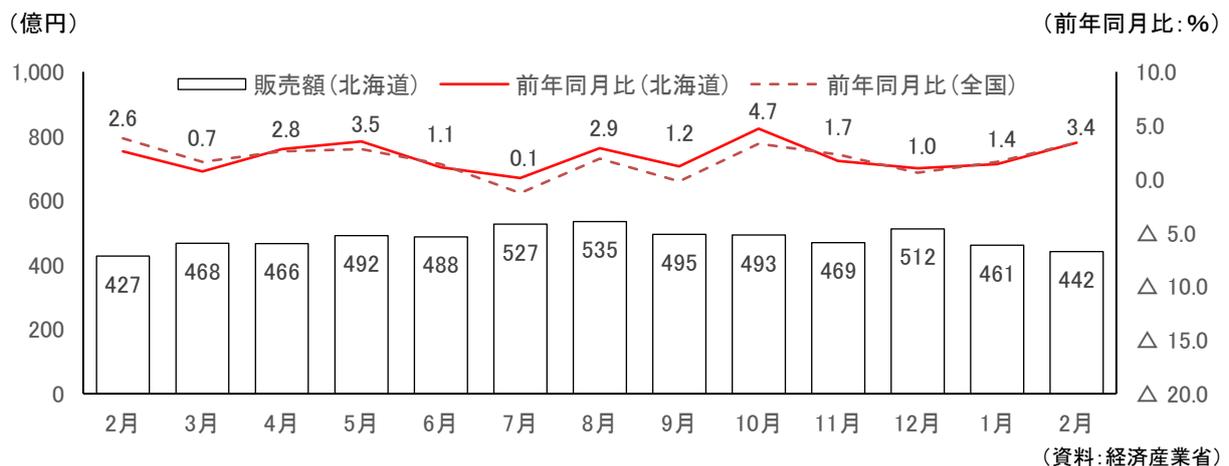
スーパー販売額（2月）

スーパー販売額は、604億円で前年同月比3.0%の増加となり、5か月ぶりに前年を上回った。



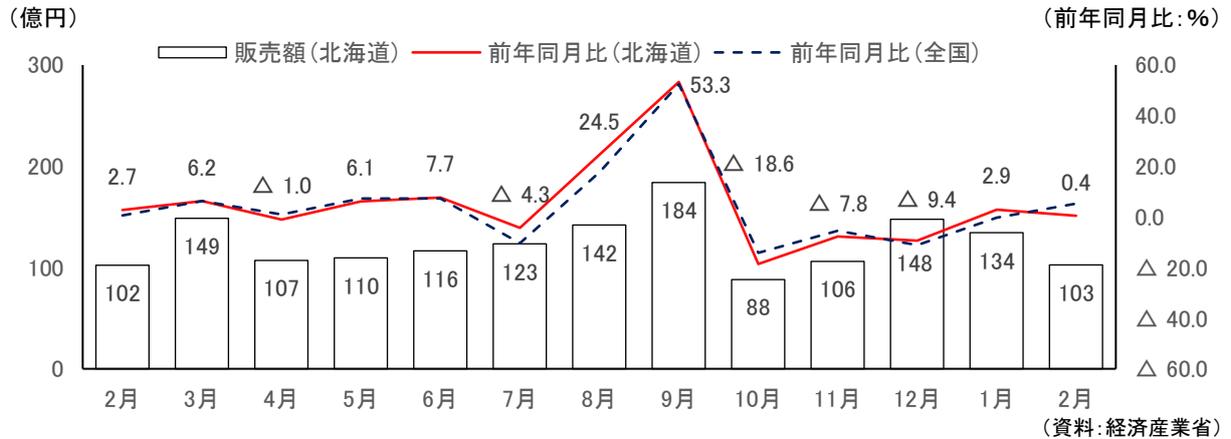
コンビニエンスストア販売額（2月）

コンビニエンスストア販売額は、442億円で前年同月比3.4%の増加となり、16か月連続で前年を上回った。



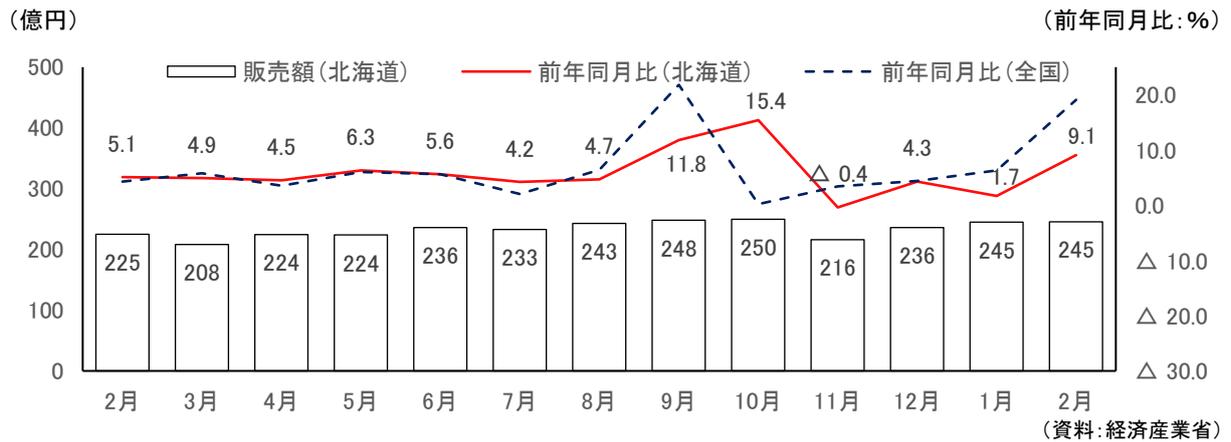
家電大型専門店販売額（2月）

家電大型専門店販売額は、103億円で前年同月比0.4%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



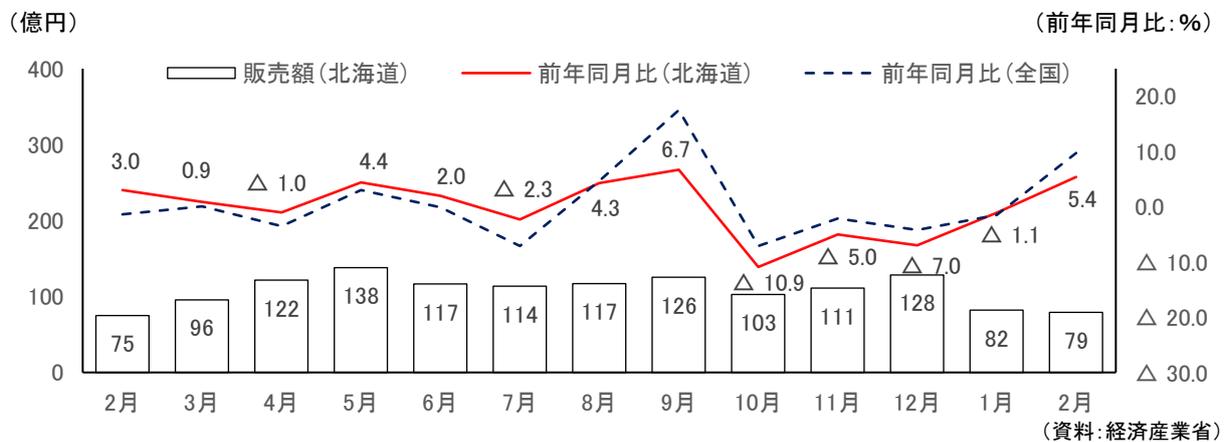
ドラッグストア販売額（2月）

ドラッグストア販売額は、245億円で前年同月比9.1%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。



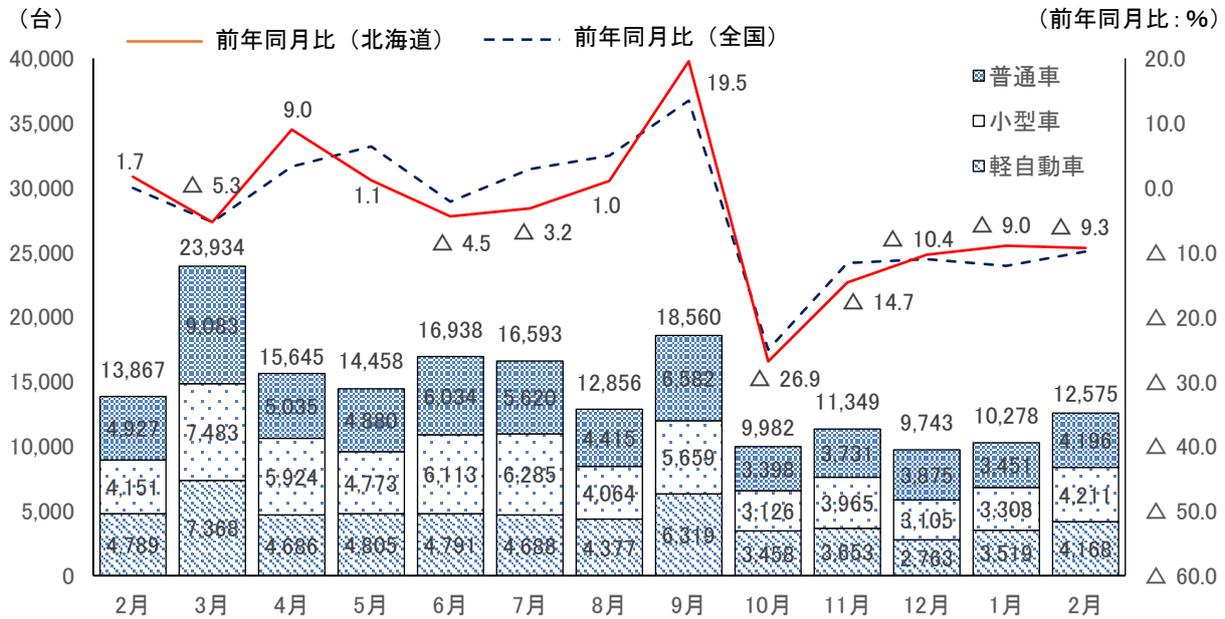
ホームセンター販売額（2月）

ホームセンター販売額は、79億円で前年同月比5.4%の増加となり、5か月ぶりに前年を上回った。

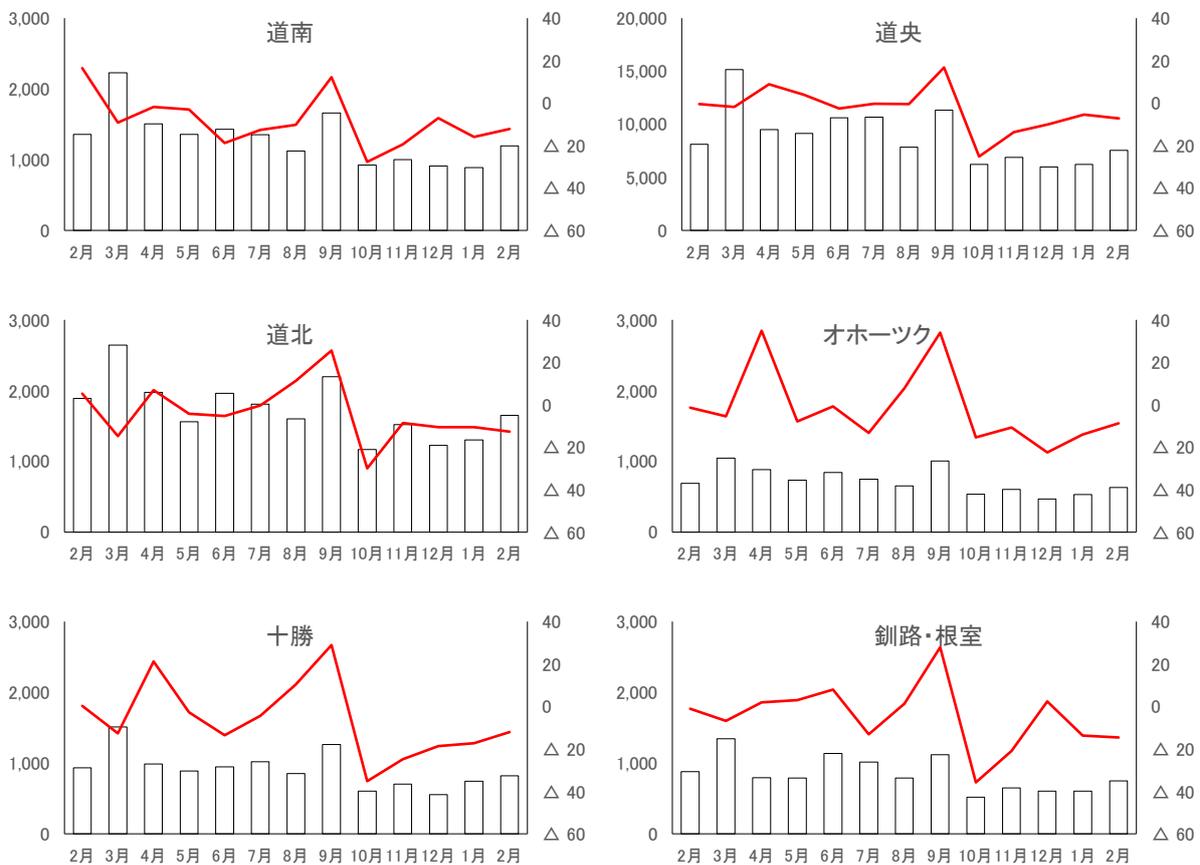


新車登録台数（2月）

新車登録台数は、12,575 台で前年同月比 9.3%の減少となり、5 か月連続で前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、4,196 台で前年同月比 14.8%の減少、小型車は、同 4,211 台で 1.4%の増加、軽自動車は、4,168 台で同 13.0%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）



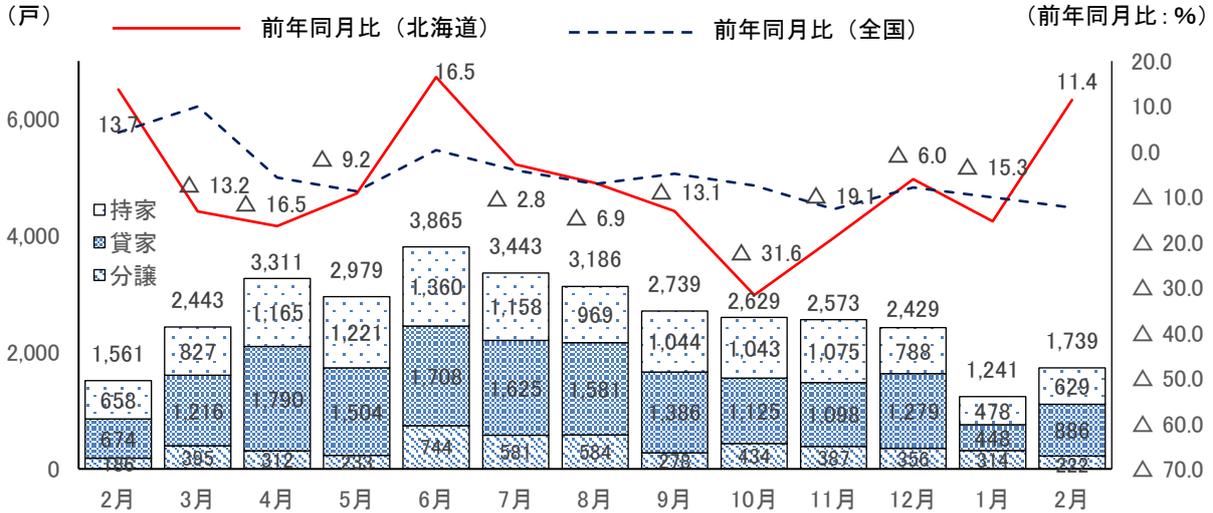
（資料：（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会）

■住宅建設～減少している

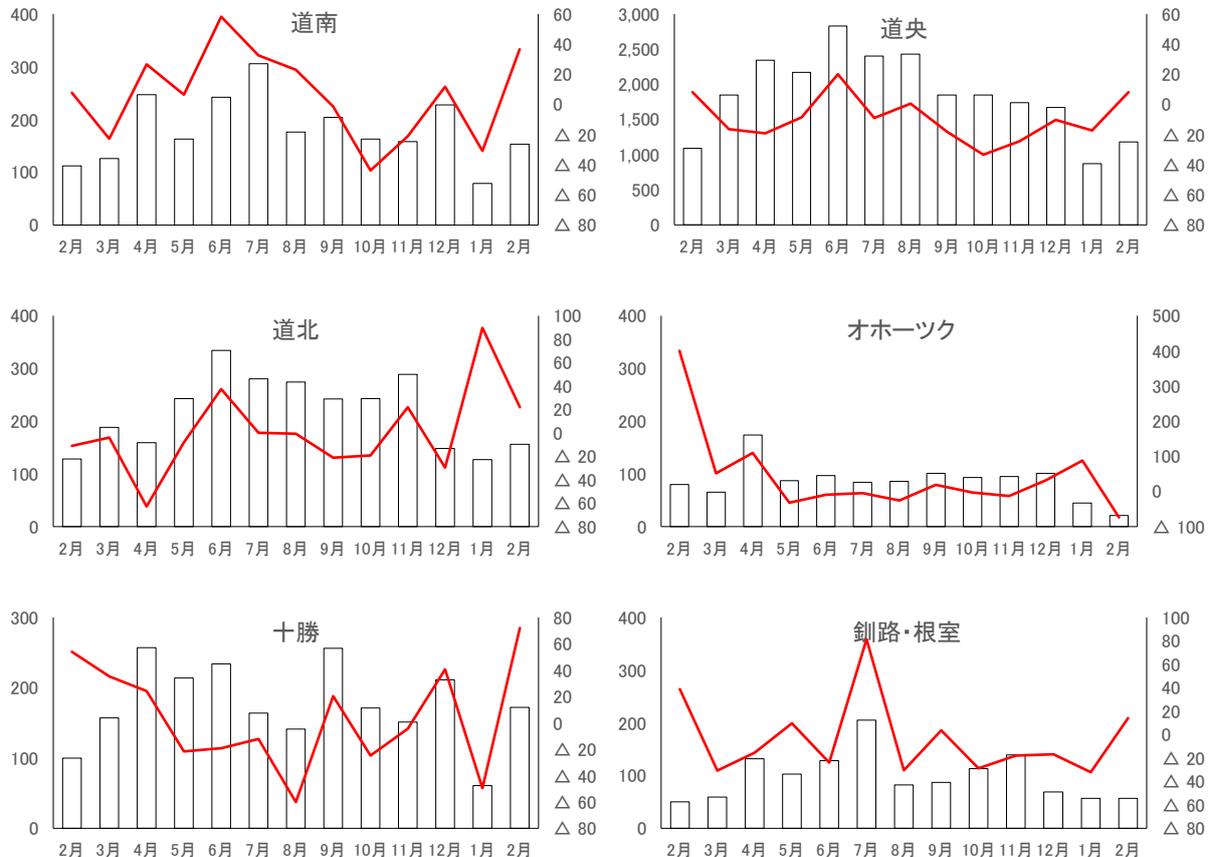
新設住宅着工戸数（2月）

住宅着工戸数は、1,739戸で前年同月比 11.4%の増加となり、8か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別にみると、持家は、629戸で同 4.4%の減少、貸家は、886戸で同 31.5%の増加、分譲住宅は、222戸で同 19.4%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

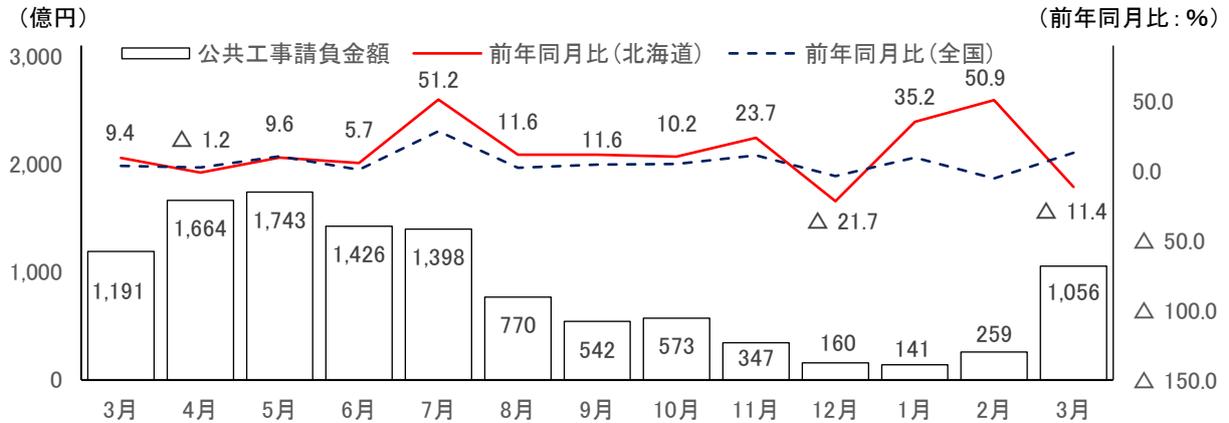


(資料:国土交通省)

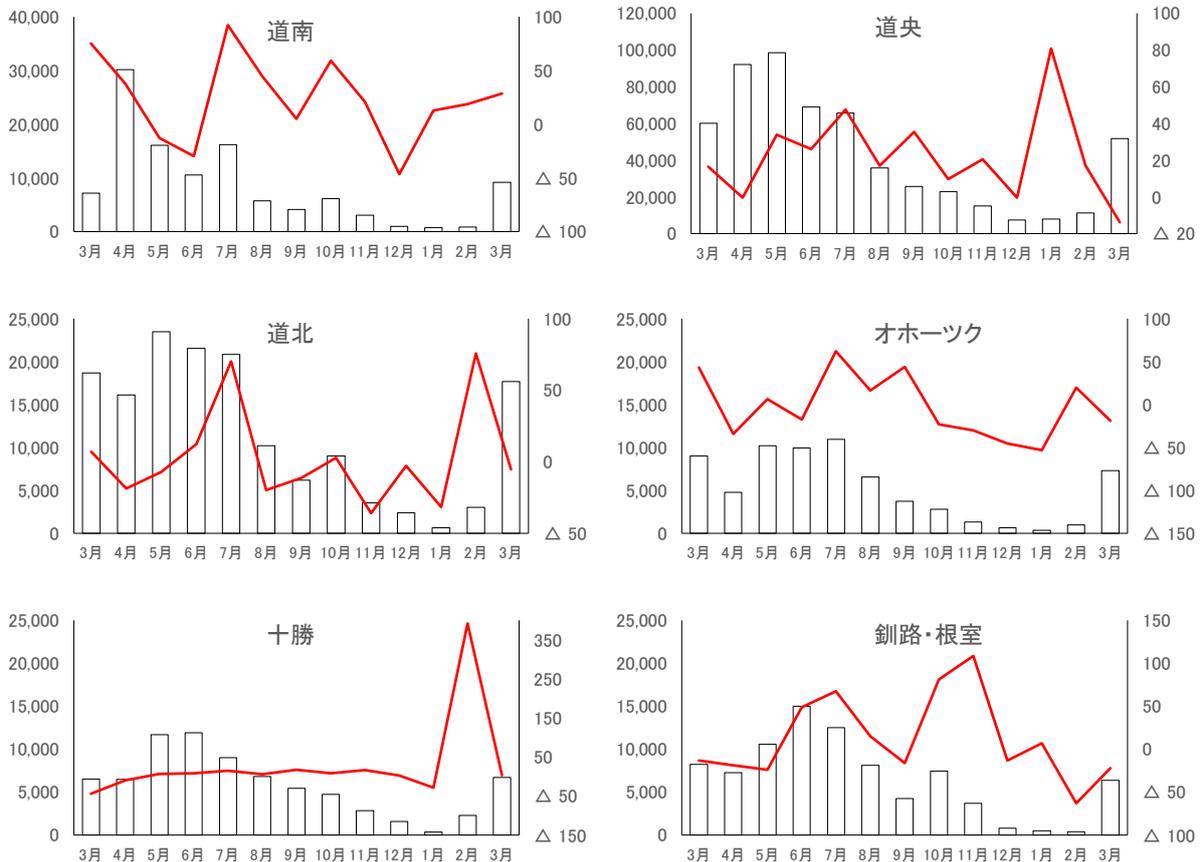
公共工事～減少している

公共工事請負金額（3月）

請負金額は、1,056 億円で前年同月比 11.4%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。



各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）



（資料：北海道建設業信用保証（株））

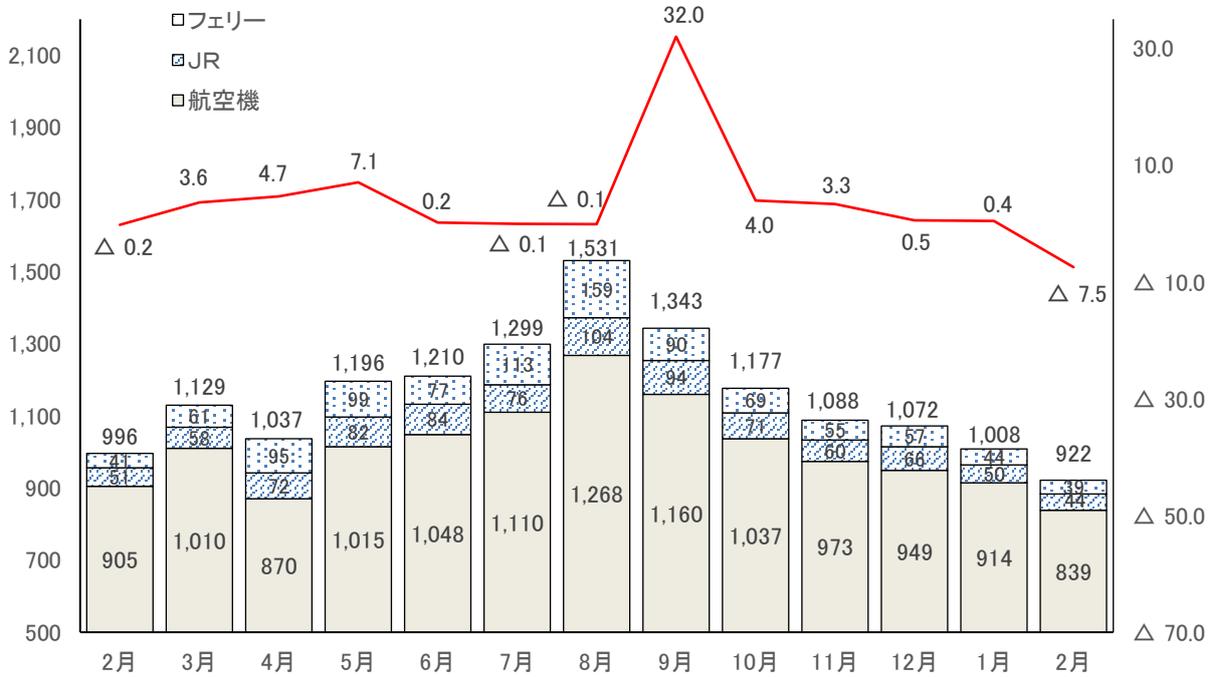
■観光～厳しい状況となっている

来道者数（2月）

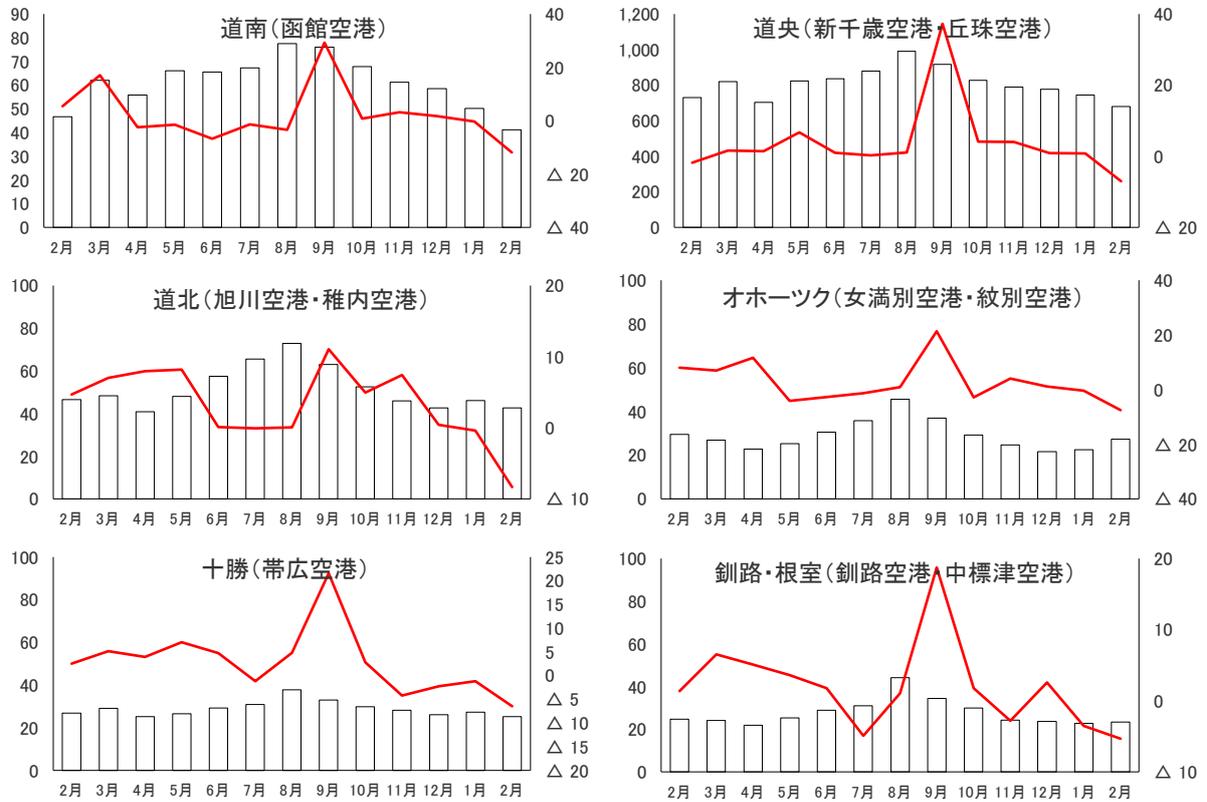
来道者数は、92万2千人で前年同月比7.5%の減少となり、6か月ぶりで前年を下回った。

(千人)

(前年同月比：%)



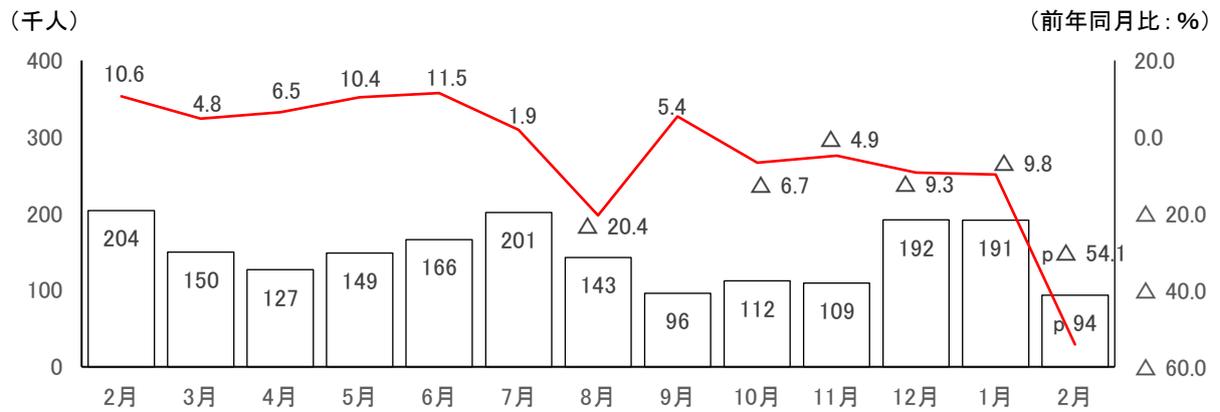
■各圏域の航空機利用による来道者数 (左軸：千人、 右軸：前年同月比%)



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（2月）

本道に直接入国した外国人は、9万4千人で前年同月比54.1%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。



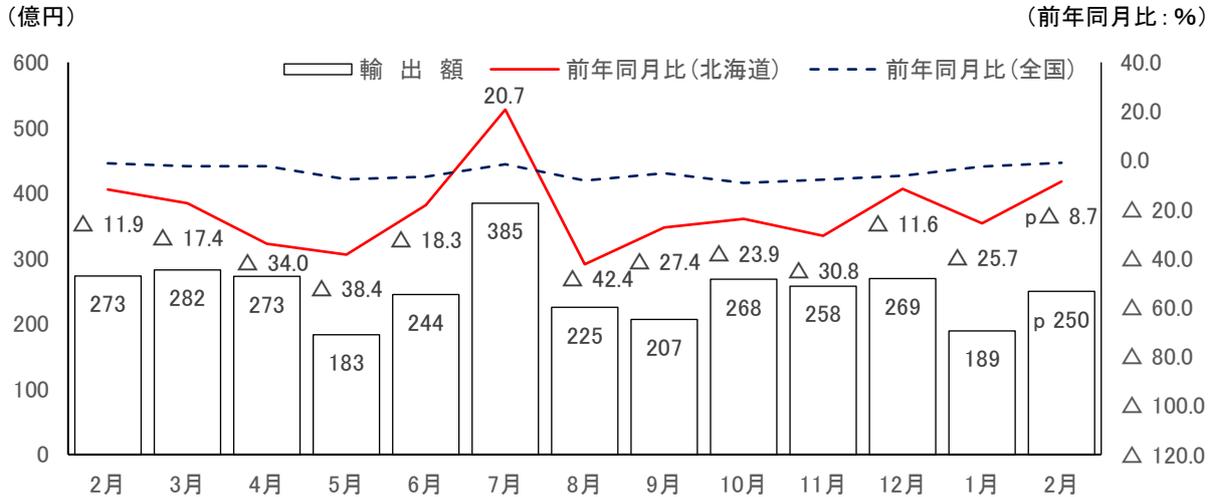
*「p」は速報値

(資料:法務省入国管理局)

■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

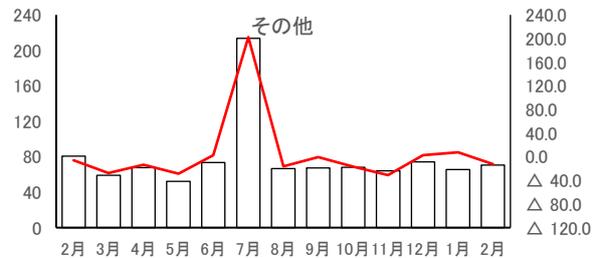
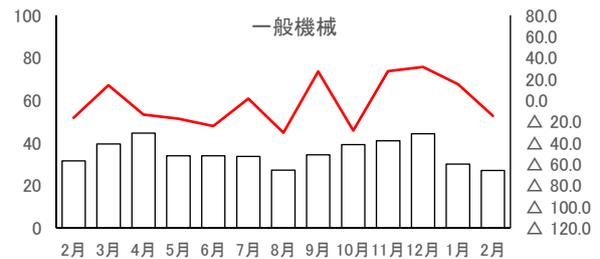
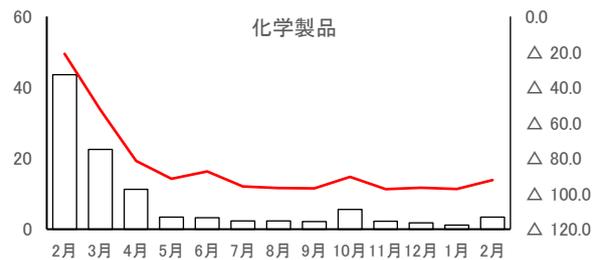
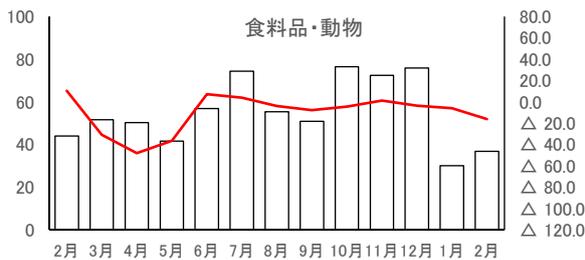
輸出額（2月）

輸出額は、250 億円で前年同月比 8.7%の減少となり、7 か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、化学製品（有機化合物、鉱物性タール・粗製薬品）、鋼鉄くずなどが減少した。



■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）

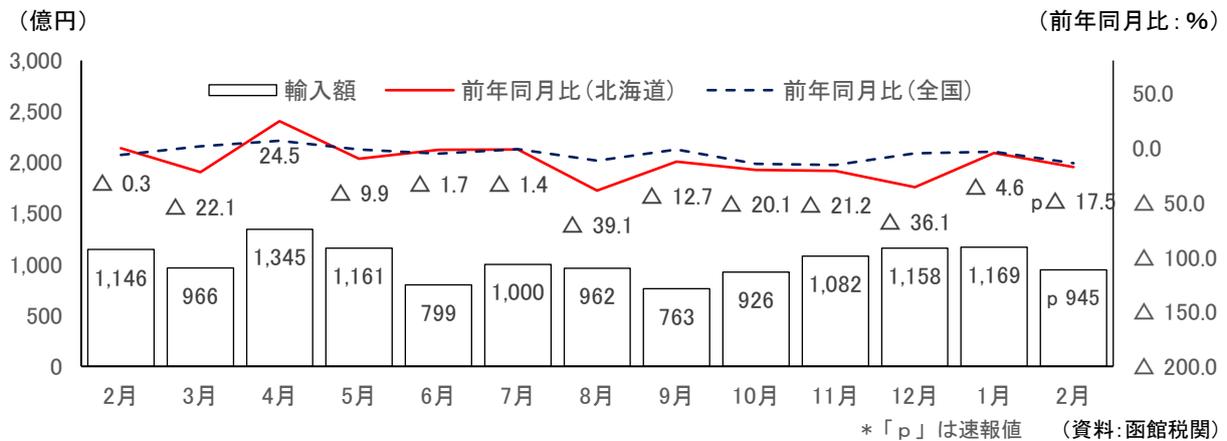
*「p」は速報値



(資料：函館税関)

輸入額（2月）

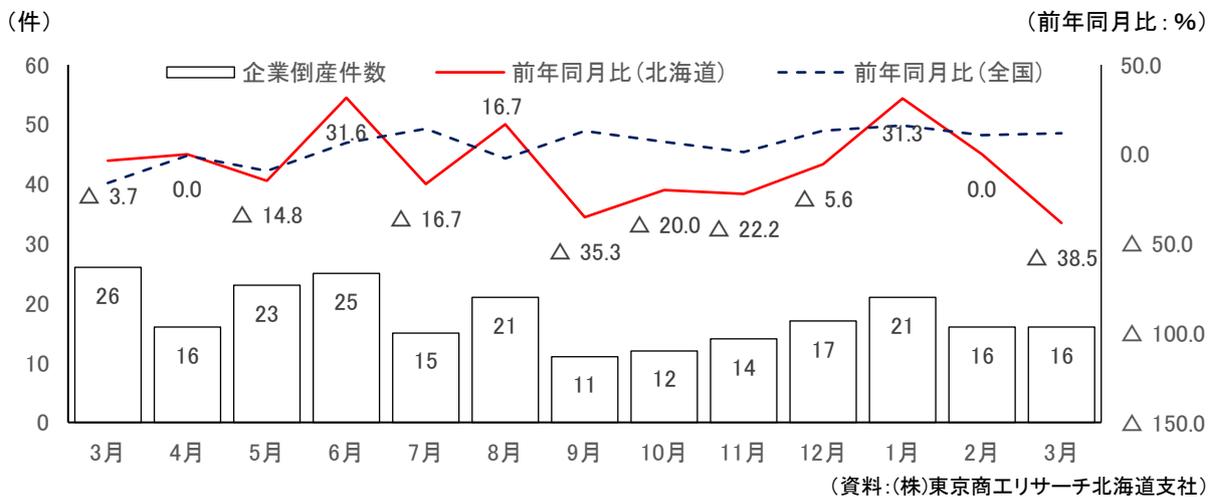
輸入額は、945億円で同17.5%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、石油製品、一般機械、肥料などが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額とも減少した

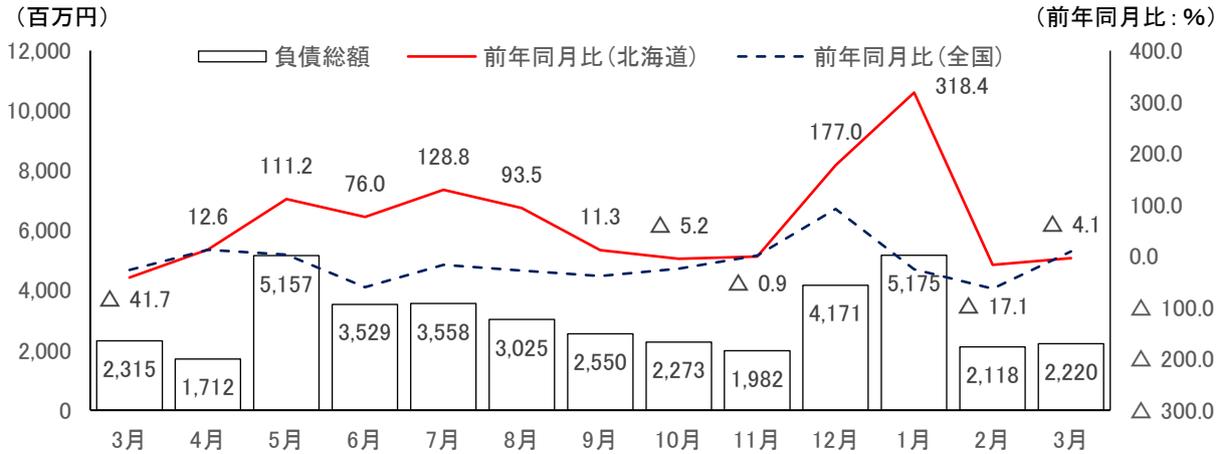
倒産件数（3月）

企業倒産件数は16件で前年同月比38.5%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。
原因別でみると、販売不振が14件（構成比87.5%）と半数以上を占めた。
業種別でみると、サービス業が6件（同37.5%）、建設業が2件、輸送業が2件となった。

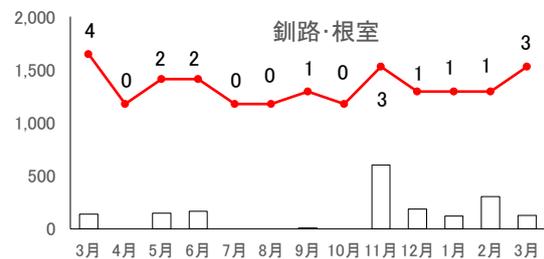
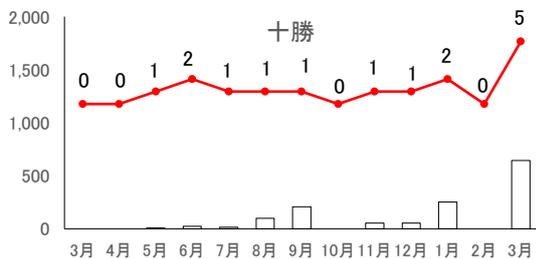
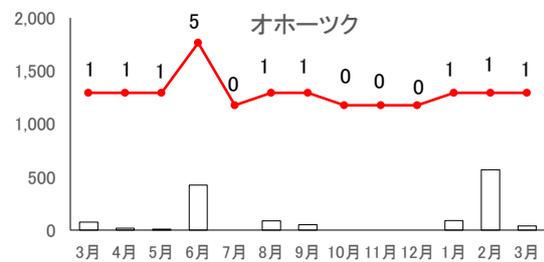
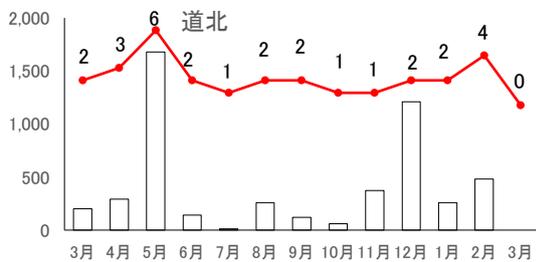
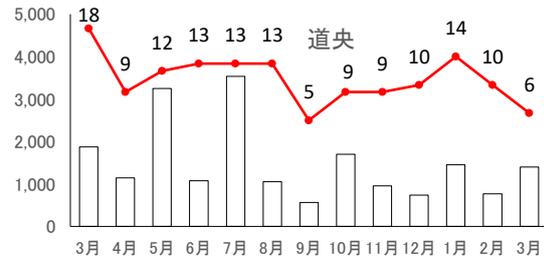
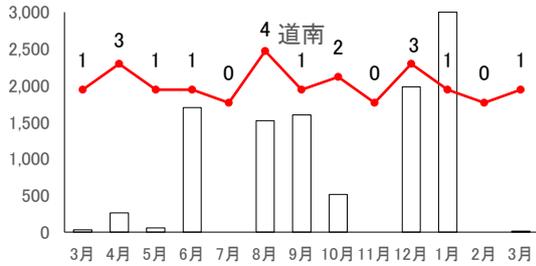


負債総額（3月）

負債総額は、22億20百万円で同4.1%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）

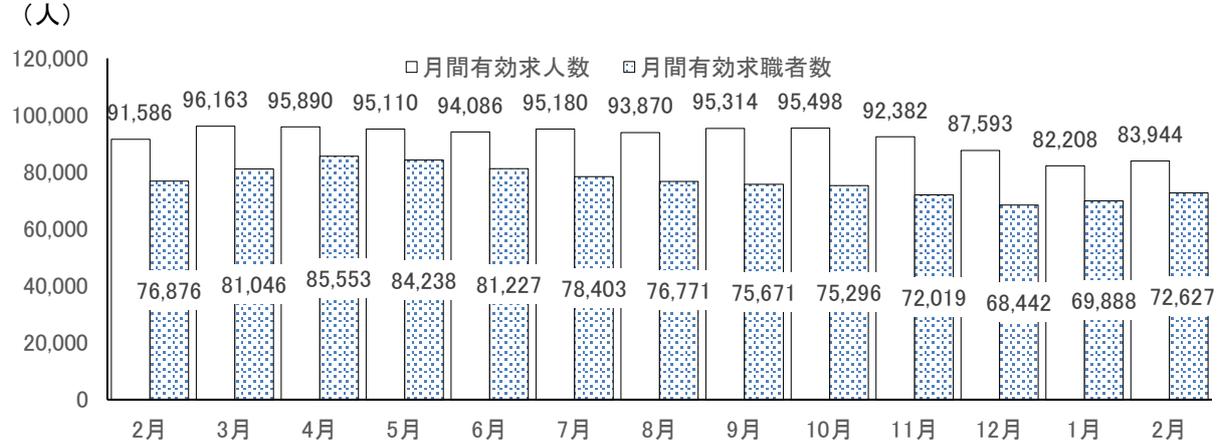


(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

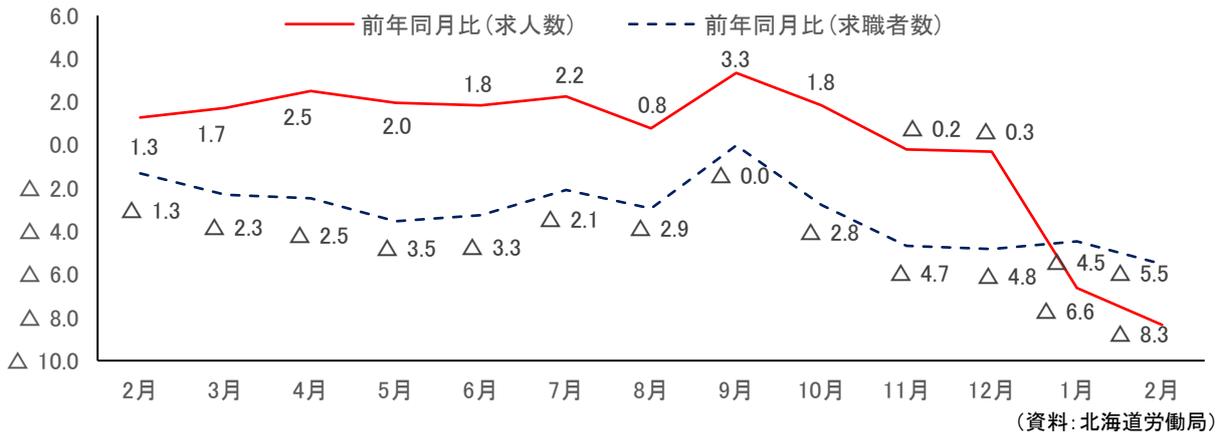
■求人・求職～弱い動きがみられる

月間有効求人数・求職者数（2月）

月間有効求人数は、8万3,944人で前年同月比8.3%の減少となり、4か月連続で前年を下回った。月間有効求職者数は、7万2,627人で同5.5%の減少となり、100か月連続で前年を下回った。

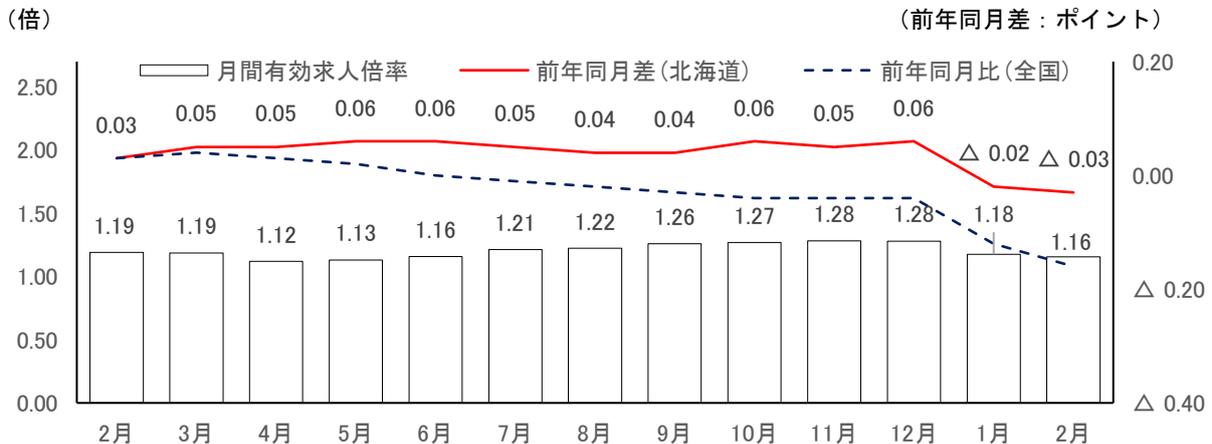


(前年同月比：%)

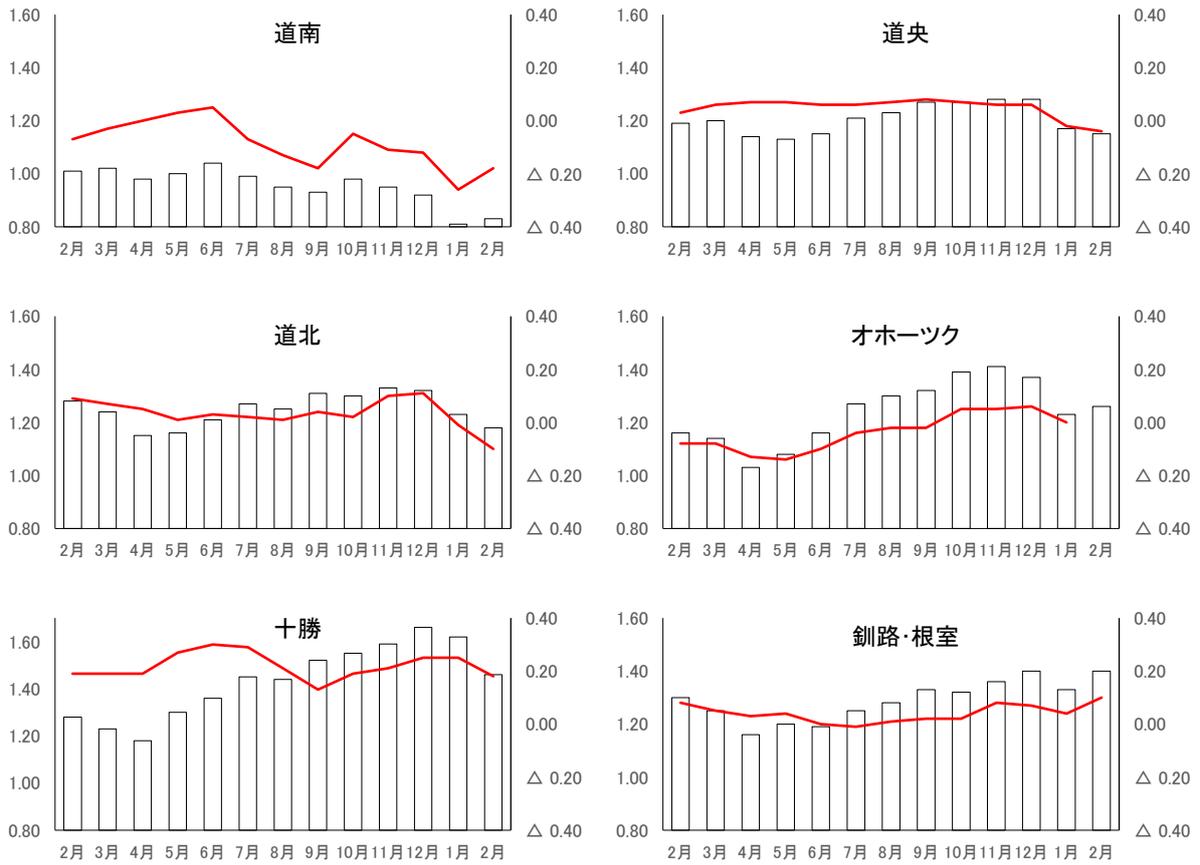


月間有効求人倍率（2月）

有効求人倍率は1.16倍で、前年同月差で0.03ポイントの減少となり、2か月連続で前年を下回った。



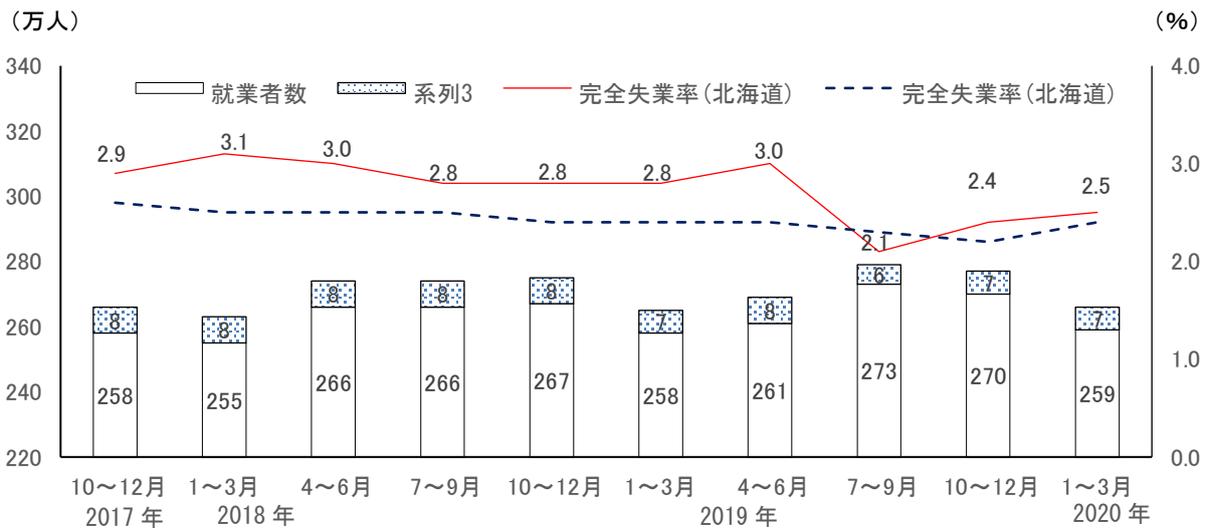
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料: 北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和2年1月～3月）

完全失業者数は、前年同期と同数の7万人となっている。
完全失業率は、2.5%で前年同期と比べ、0.3ポイント低下となっている。

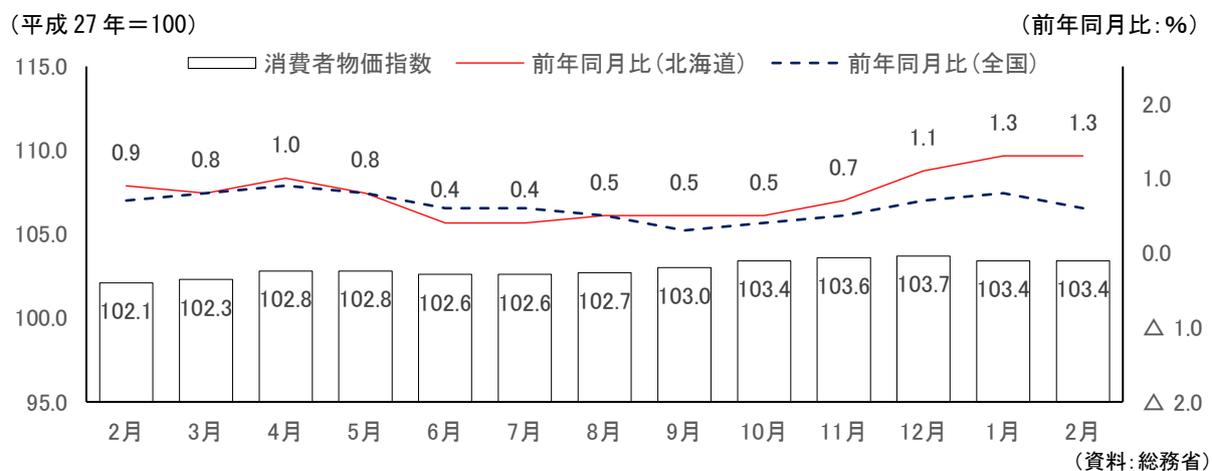


(資料: 総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を上回った

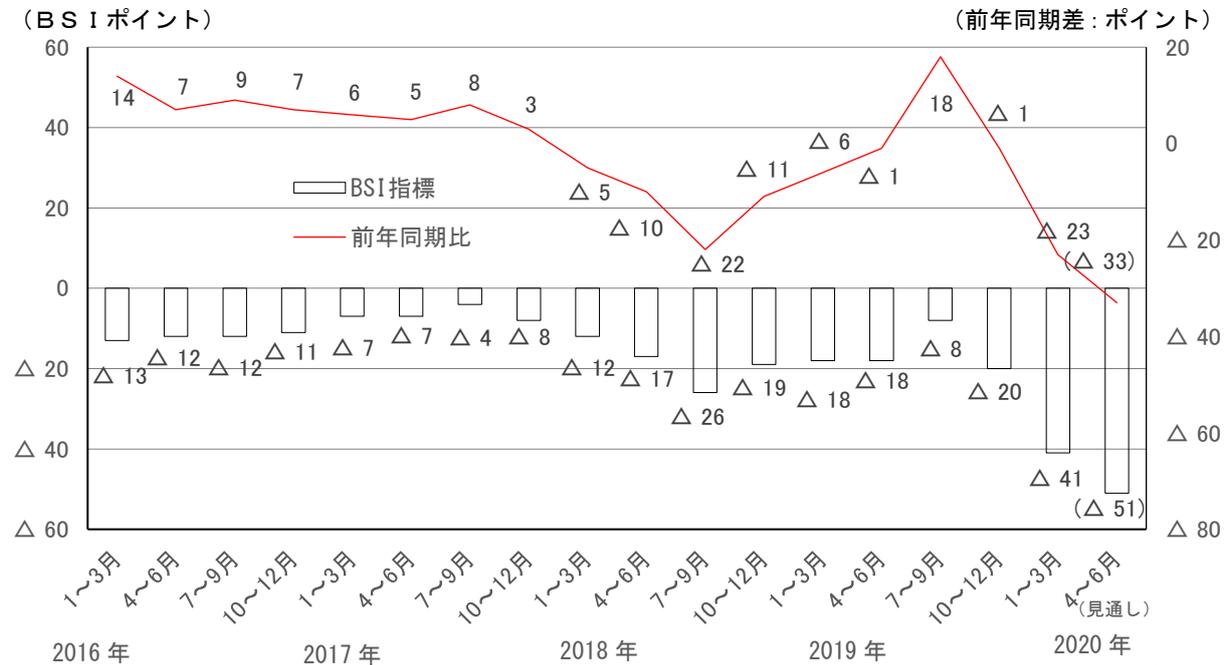
消費者物価指数（2月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、103.4で前年同月比1.3%の上昇となり、39か月連続で前年を上回った。

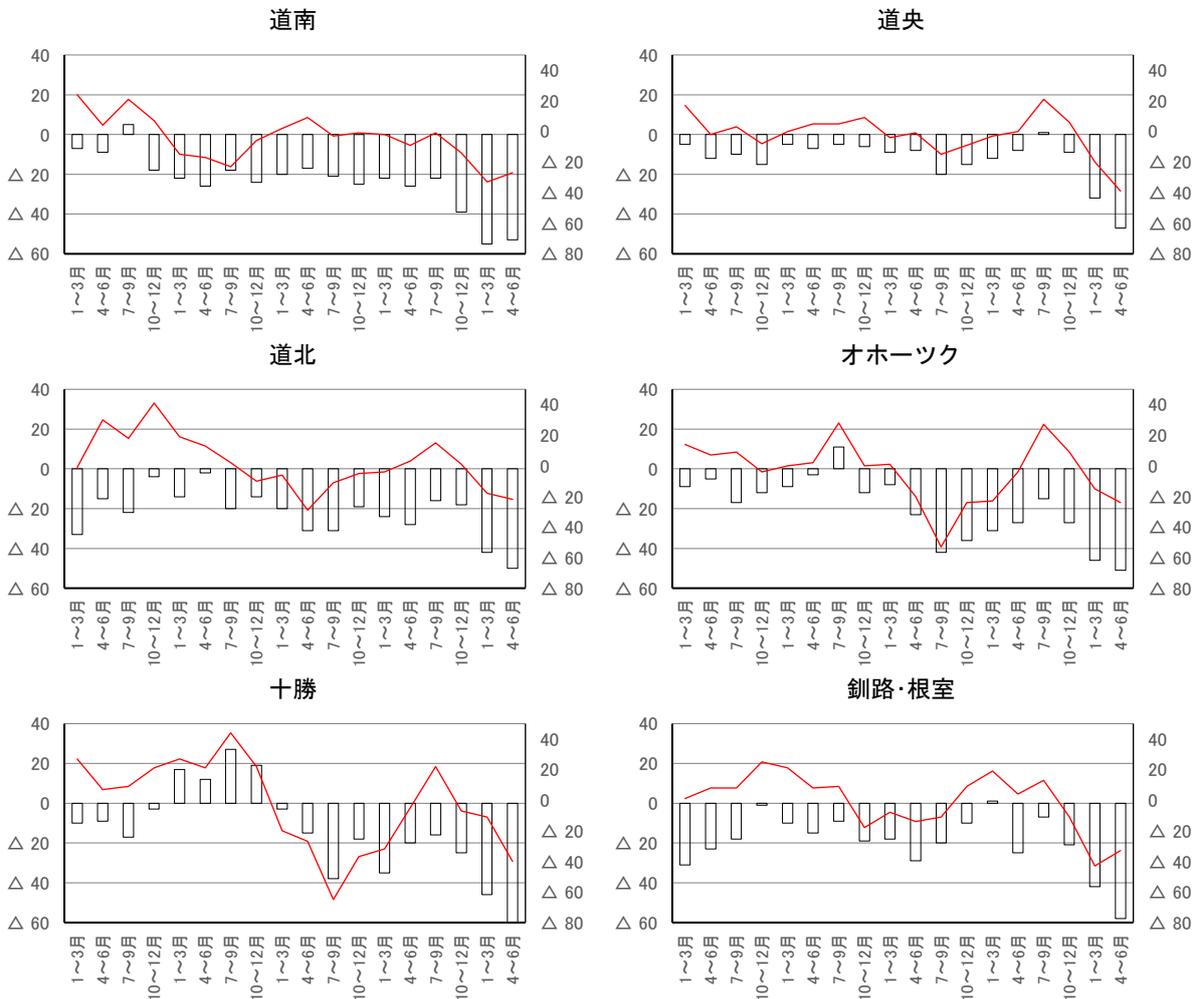


■企業経営者意識調査～前期から下降している

令和2年1～3月期の業況感BSIは△41で、前期から21ポイント下降しており、前年同期より23ポイント下降している。来期見通しは△51ポイントで、今期から10ポイント下降の見通しとなっている。



各圏域の業況感BSI (右軸：前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店A（道央地域）

【緊急事態宣言から2週間程度は客数が7割減、3月中旬以降は若干戻る】

2月は、インバウンド売上が急速に落ち込んだものの、バレンタイン等催事の売上は前年並をほぼキープするなど、新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であった。2月28日の「緊急事態宣言」の発表から2週間くらいの間は、客数は前年の5割減程度で推移した。

3月に入ってからは、臨時休業や時短営業等の影響もあり、売上が大きく減少したものの、3週目あたりからは若干客数の戻りが見られてきている。

◆百貨店B（道央地域）

【3月以降の売上はほぼ半減】

2月下旬の北海道の緊急事態宣言を境に、来客数、売上共に大幅に減少し、3月の売上は前年同月比で5割程度まで落ち込んだ。4月に入ってからは、それを上回る売上減少が続いている。インバウンド売上については、3月以降は、ほぼ全減の状態となっている。

現在は、一部の売場を除き当面の間臨時休業としているが、今後の見通しは立っていない。

◆スーパー（道央地域）

【まとめ買い傾向が強まる】

3月は前月よりも買い物の回数を減らして、1回に多く買って行く傾向が強まった。また、首都圏でのコロナウイルス感染拡大の報道が増えると客数と売上が増加するという現象があらわれた。

【コロナ関連商品が好調】

保存がきく食品や免疫力向上が期待される食品の売上は引き続き好調だった。ペーパー類はお一人様何個などの個数制限を付けるなどして、品切れは3月中に改善された。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【来店客数は減少だが、買上点数は増加】

3月は、お客様の外出行動自粛により来店客数は減少したものの、一度の来店での購入点数が増加する傾向が出ているため、売上は客数ほどの落ち込みはない。ただし、温泉地やスキー場などの観光地では、外国人観光客の激減にホテルの休館などが重なり大幅な売上減となっている。

【家庭消費の品目の売上が増加】

都市部の店舗では、テレワークや在宅勤務の影響による流入人口の減少により売上が減少している一方、家庭での内食傾向の高まりにより、住宅地では生鮮品や牛乳、納豆、豆腐などの

基礎的な食品の売上が増加した。また、免疫力を高める効果が期待できるヨーグルトなどの発酵食品のほか、カップ麺や冷凍食品などインスタント食品の売上が伸びている。

◆金融機関（道央地域）

【特産品の価格が低下】

管内では、新型コロナウイルスの影響が漁業や農業にも出ている。道外で人気の「北海道物産展」が相次いで中止されたほか、特産のウニを活用した地元のお祭りの4月のお祭りも中止となった。都市部のすし店や居酒屋等からの注文も大幅に減少して価格が低迷し、漁協では漁期中断や開始の延期を行っている。ブランド牛肉の価格も低下傾向で、出荷している農協関係者も先行きの不安をもらしている。

【相次ぐ宿泊や宴会のキャンセル】

宿泊施設や飲食店では、2月下旬から宿泊や宴会のキャンセルが相次いだ。飲食店では、外出自粛要請等で来店客が激減し、この状況が続けば廃業も余儀なくされると危機感を強めている。また、管内におけるこの先のいくつかの春のイベントも中止が決定している。

◆自動車小売業（道央地域）

【消費税増税と新型コロナウイルスで苦戦】

昨年から今年にかけてモデルチェンジを行った車種が健闘しているものの、2019年10月の消費税増税前の駆け込み需要の反動減や新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、業界全体の販売が低迷している。2019年度下半期の来店客数は減少傾向で推移してきており、1～3月期の販売状況は想定を下回って推移した。特に北海道の「緊急事態宣言」期間の来店客数が、外出自粛により例年を大幅に下回ったほか、車両点検の予約キャンセルが発生し、今後の見通しを立てることが難しくなっている。

【入荷の遅延が発生】

新型コロナウイルスの影響により、納車の遅延が3月は数件に留まったものの、入荷の遅延が発生し始めている。感染症が長期化した場合、顧客の収入減少による購買意欲の低下に加え、車両の入荷減が業績に影響してくると想定している。

◆宿泊業（道央地域）

【一時休館を予定も、先行きは不透明】

新型コロナウイルスの影響により、4月下旬～5月上旬まで休館としているが、その後についても先行きが不透明な状況となっている。3月は、宿泊者数、レストラン売上げ、宴会・会議場の利用状況いずれも2けた台の落ち込みとなった。

最近の経済動向

令和2年4月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>